

チャレコミ・ギャザリング 2020 春 レポート

NPO 法人 G-net インターン生/学校法人角川ドワンゴ学園 N 高等学校

林 嘉音

●はじめに

現在、私は NPO 法人 G-net というコーディネーター団体でインターン生として、高校生向けに地元企業について知ってもらう企画やつながるキャンパスというオンライン上のキャンパスを運営などしていく中で、チャレコミの会員の方達の活動などを目にする機会があり、一度は、話してどのような活動をしているのか直接知りたいと思った時に、コーディネーターの掛川さんより紹介させてもらい今回参加させてもらいました。この2日間を通して、私にとっては、大きく2つのことを知りました。

●1つ目「現実」

1つ目は、チャレコミのまわりの現実です。

これまで、インターネットなどでチャレコミに所属している団体の活動などを見て、知っているところもありましたが、実際に運営をしている方からのお話を聞くことはなかったので、私がまだ知らないことを知ることがありました。

① チャレコミの人の活動

コロナ禍において、これまで行ってきた活動に変化が必要になってきた中で、本当にこれまで何がしかあったという原点に振り返るワークがあり、これまでの活動と活動を通しての本当にやりたいことについて知ることができました。また、この状況下においても本当にしたいことを実現するためにどうすればいいのか、本気で考えている姿を見て、私たち学生や企業さんのサポートを充実させるために日々、様々な問題に立ち向かいながら活動していただいているということを改めて知ることができました。

② 様々な中間支援機関

私は、ギャザリングに参加するまでは、NPO 法人 G-net などの NPO 法人やまちづくりを目的としている会社だけが中間支援機関としてあるものだと思っていましたが、1日目に開催された「金融機関・自治体と連携して地域に人材を呼び込む、中間支援機能の役割」では、金融機関や自治体が外部委託という形ではなく、直営で実施しているところもあるという話を聞き、これからは様々な業種が中間支援組織としての活動をしていくということを知りました。金融機関であれば、金融面では他の中間支援機関よりも強い点であるなど、それぞれに団体によって強みを生かしつつ、連携していくことでより強固な中間支援機関になっていくのではないかと思います。

●2つ目「姿勢」

2つ目は、チャレコミのギャザリングに参加している人の姿勢です。

現在のコロナ禍において、誰かの責任にして批判などをするなどして何も自分自身から動き出さないということは簡単にできますが、何も変化しません。しかし、チャレコミの方達は、誰かの責任にするということはずらずに、現在置かれた状況下において、どうすればよりよいものになっていくのか前向きに考えているところが印象的でした。私が感じた前向きな姿勢はこのコロナ禍だからというわけではなく、多分その前から常に地域のために、中小企業のため、学生のためになど団体によって方向性は違うと思いますが、現状をより良くするために活動をこれまでも続けてきたからだと思いました。

●ギャザリングを経験して

今回、はじめてギャザリングに参加して、チャレコミに参加している団体の人たちの活動について知ることはもちろんですが、姿勢に対しても、とても学ぶべきことの多い2日間でした。今回、学んだことをインターン先の NPO 法人 G-net で実践していくとともに学校の授業などでも姿勢の部分などを見習って生活していきたいです。また、全国各地にまちづくりなどを目的とする団体があるということを知らないけど地域活性化などに興味がある大学生や高校生もいると思うので、その人に挑戦を応援してくれる大人たちがいるということ伝えていく必要があるなと思います。そして、今後ともチャレコミの皆さんよろしくお祈りします。2日間本当にありがとうございました。